

やまなし Book Journey

わたしのまちの郷土本案内
身延町立図書館 編

残し、伝えること

明治39年を初版とする『**身延の枝折**』は信仰と観光の町、当町ならではの資料です。当時の身延山参詣公式ガイドブックといったものですが、現存しない寺院、忘れられた地名や伝説の由来譚等の記載もあることから、身延の昔を調査する手がかりになる貴重な資料ともいえます。

身延町には「下山大工」「西嶋和紙」「身延道」など後世に伝えたい歴史があります。当館ではそれら「地域に関わる資料」の収集・保存を行っています。冊子、新聞記事、写真等もその対象としています。生誕三百年の「木喰上人」についても、柳宗悦の著作から写真集、水木しげる翁の漫画までの幅広い収集を現在も継続中です。また各テーマごとのまとめを図書館のウェブサイト上で紹介するなど、地域の歴史を残し、伝えるための活動に努めています。（身延町立図書館 保科貴子）



『身延の枝折』
左：昭和8年版
中央：昭和14年版
右：昭和48年初版発行
49年2版

「身延町地域資料」は図書館ウェブサイトから見るができます。



「贈りたい本大賞」

大切な人へ贈りたい本を選び、150字のメッセージにしたための「贈りたい本大賞」。

今年度は、受賞者への表彰式後、阿刀田高名誉館長講演会&金田一秀穂館長とのトークショーを開催します。ぜひご来場ください。

日時：2018年11月11日(日) 14:30～16:30

会場：当館1階イベントスペース

定員：320名 事前申込制・無料

「贈りたい本大賞」昨年度の大賞作品をご紹介します。



友達へ

『きみの友だち』

重松 清／著
新潮社

本当の友達ってなんだろう。親友と喧嘩した私はこの本を読んでそう思った。「いなくなっても一生忘れない友だちが、一人、いればいい」この文を読んだ時私は喧嘩中の親友の顔が思い浮かんだ。自分の気持ちを正直に伝える事が苦手な私だけど、「ごめんね」の気持ちと一緒に本当の友達を覚えてくれたこの本を贈りたい。

末木七海（甲府昭和高等学校）

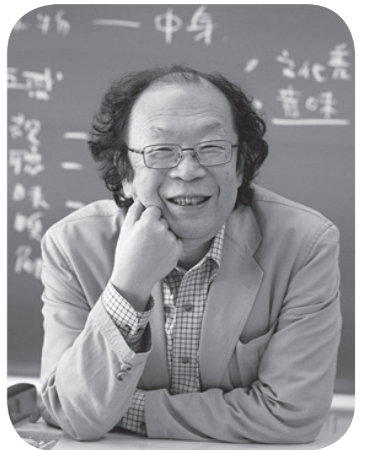
新館長からのごあいさつ

図書館の出来ること

この四月から、阿刀田高さんの後をついで、県立図書館長の席に座ることになりました。早くも半年近くなって、まだわからないことばかりなのですが、精鋭スタッフに支えられて、なんとか動き出しています。

図書館の役目は何と言っても資料の収集です。今やAIの時代、紙上の記録ではなく、電子化されたものが主流になりつつあります。時代に遅れないように、毎日せっせと人類の蓄積をためています。地味ですが、なによりも大切な仕事です。



いっぽう、図書館はあらゆる人のための居場所でもあります。本図書館の誇りは、全国で二番目に利用者が多いことです。無料で入場出来て、しかも最新の膨大な全世界の情報につながることができます。お勉強だけでなく、楽しめる場所として、みなさんどうぞ自由に活用してください。お待ちしております。



撮影/タカオカ邦彦氏

金田一 秀穂

Information 2018年度これからのイベント

<p>■中高生 フレッシュコンサート 10月21日(日)</p> <p>県内の中学生・高校生による吹奏楽、アンサンブル、アカペラ等のコンサートです。</p> 	<p>■かいぶらり朗読のつどい 県民の日朗読会 11月20日(火)</p> <p>県民の日を記念し、辻村深月氏のエッセイ『図書室で暮らしたい』を山梨放送の依田智子アナウンサーなど数名が朗読します。</p>
<p>■かいぶらり健康フォーラム 12月9日(日)</p> <p>NPO法人がんフォーラム山梨と共催で、最先端の治療法・患者の生活支援などの情報を提供します。</p> 	<p>■ビブリオバトル やまなし2018 12月9日(日)</p> <p>山梨予選を当館で開催します。一人5分の持ち時間で書評。その後にバトルと観客が一番読みたくなった本、「チャンプ本」を決定します。</p>

本と人をつなぐ 第1回 図書館間の相互貸借

「相互貸借」は全国・県内の図書館間をつなぐサービスの名称で、知っているのととても便利。近く図書館に所蔵していない本を他館から借りることができます。利用者のみなさんにより早く本の提供ができるよう市町村図書館の協力のもと、当館からは水曜日と金曜日の2回、スタッフがふるさと号で拠点館に本を届けています。

借りられる本の選択肢がぐっと広がる相互貸借。ぜひ、一度ご利用ください。



たいしゃく
ふるさと号。
甲州～富士吉田方面と、北杜～身延方面へ週1回ずつ巡回。毎週県内をぐるりと1周しています。

当館に届いた相互貸借本は、図書館ごとコンテナに分けて積み込みます。



4/21 入館者500万人達成!



新館開館以来約5年半、1,988日目となる4月21日に、入館者数が500万人を突破しました。図書館は多様な県民活動の場となることを目指した取り組みを進めており、毎日大勢の方の来館で賑わっています。この日、500万人目の入館者となった昭和町の小野博隆さん、あかりさん親子には、館から感謝をこめて花束と金田一秀穂館長の著書、サイン色紙等の記念品を贈呈いたしました。

5/26 中国の民話って面白い! ~中国56民族と民話の世界~



当館蔵書の『彩絵本中国民間故事』全56冊を展示しました。日本語訳をまとめられた陳玉容先生が、壮族の「九尾狗」について、中国語と日本語による朗読をし、中国語の美しい響きを堪能しました。また、中国少数民族の伝統芸能と、陳先生のご出身である台湾・澎湖島の映像による紹介もありました。中国ファンの方も集まり、会場は熱気に包まれました。

資料展示 報告

富士山を描いた画家~横山大観生誕150年~ 5月25日(金)~7月22日(日)

2018年は横山大観生誕150年にあたります。この節目の年にあわせ2階情報サテライト1にて、横山大観の作品を中心に、これまで様々に描かれてきた富士山の絵に関する資料等の展示を行いました。横山大観は生涯にわたって富士山をモチーフにした作品を約1,500点も生み出したとされており、その魅力の一端に触れていただける展示となりました。(調査サービス担当 新井淑水)



7/15 館長講演会「AIと言葉」



当館1階イベントスペースにて「館長講演会 AIと言葉」を開催しました。金田一秀穂館長の初めての講演会ということで、約300名の方にご来場いただきました。私たちが100年生きていくこと、働くこと、学ぶことの意味や価値、言葉はどれほど大切なのかを改めて一人ひとりが主体的に考えなければならないことの重要性を問いかける講演でした。

8/25 まーの・あ・まーの手話のおはなし会



きこえない子どもたち、手話の読み聞かせに興味のある子どもたちを対象に『いいからいいから4』『なにをたべてきたの?』の2作品のおはなし会を開催しました。手話の読み聞かせは、静かな中に非常に情熱的な作業であり、コミュニケーションの源泉は情であることが感じられたイベントでした。子どもたちも保護者の方も、満面の笑顔でした。

TOPIC 1 図書館協力員の日常 Vol.1 花を生ける 環境整備分野 木村 織江



今日はケイトウとカクレミノを生けました。

館内に飾る花を花器に生けたり、お世話をしたりする係を全9名で担当しています。今年で協力員になって5年目。利用者さんから「いつもこのお花に癒されてますよ」などあたたかい言葉をいただくことも多く、帰り道、うれしい気持ちになります。もともとのづくりが大好きなので、花が一番綺麗に見えるよう、楽しみながらアレンジを考えています。

TOPIC 2 絵本の読みきかせ 「よちよちおはなし会」と「とことこおはなし会」



靴を脱いでリラックスできるよむよむスペース。

当館発行・配布中の「絵本の世界へおはなし会で使えるブックリスト」。



当館では、職員によるおはなし会を毎日行っています。平日の火曜日から金曜日は0歳から2歳向けの「よちよちおはなし会」、土・日曜日と祝日は3歳から小学生向けの「とことこおはなし会」です。時間は午後2時30分から、場所は1階のよむよむスペースです。2、3冊の絵本の読み聞かせと、わらべうたや手遊び歌を組み合わせた15分から20分ほどのプログラムです。事前の申し込み等は不要ですので、気軽にご参加ください。午後のひととき、一緒に絵本の世界を楽しみましょう。(子ども読書推進担当 日下部光代)

TOPIC 3 山梨県立図書館のSNS ぜひフォローしてね!

記念日のおすすめ本や、多感なティーンズのみなさんへのおすすめ本、イベント情報など、ジッポと職員が日々鋭意更新中!



山梨県立図書館キャラクター 本探偵 ジッポ・ホンムズー世

Twitter : https://twitter.com/lib_pref_ymns/

Facebook : <https://www.facebook.com/lib.pref.yamanashi/>



やまなし読書人

人と人とを結ぶ「本」の可能性

敷島書房 一條 宣好

2019年は「甲府開府500年」の記念の年。ゆかりの人物、武田信虎に注目が集まっています。そんな時に会った武川佑さんの『虎の牙』。信虎・勝沼信友・原虎胤をメインに据えた魅力たっぷりの長編。SNSで著者と知り合い交流を深めるうち、山梨が舞台であるこの一冊を書店員としてたくさんの方に届けたいという強い思いが。そこで武川さんにブックフェアを提案。参考文献や愛読書をチョイスしコメントをもらいました。実施にあたり不安もありましたが、武田氏ファンのみなさんが持つアンテナの感度と行動力に助けられ、県外からも多数のご来店をいただいて、予想を超える大盛況に。「本」の持つ大きな可能性を再確認できました。



作家・武川さんによる書きおろしポップ。